

第8回 放出源の有効高さ評価分科会
議事録

1. 日 時 2022年1月20日(木) 10:30~11:30
2. 場 所 Web会議開催
3. 出席者(敬称略, あいうえお順) 定員16名中, 14名出席
委員:市川(龍谷大学), 井上(気象協会), 大野(東電), 岡林(三菱重工), 小野(電中研),
近藤(気象協会), 佐田(電中研), 田伏(関電), 中山(JAEA), 山内(IHI),
山澤(名古屋大学), 藤井(原電, 記)
常時参加者:佐々木(三菱重工), 田中(東電)
4. 議 題
 - (1) 前回議事録(2021年10月20日)確認
 - (2) 人事について
 - (3) “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準(改定案)”に関する原子力学会標準委員会中間報告における意見募集結果及び意見への対応について
5. 配布資料
 - 資料1 : 前回議事録
 - 資料2 : 人事について
 - 資料3-1 : 原子力学会標準委員会 中間報告における意見募集結果
 - 資料3-2 : 中間報告意見募集対応一覧
 - 資料3-3 : 数値モデル計算実施基準 改定案 修正前後比較表
 - 資料3-4 : 数値モデル計算実施基準 完本(案)
 - 参考 : 今後のスケジュールについて

6. 議 事

(1) 前回議事録（2021年10月20日開催）確認について

前回議事録の紹介があり、コメントなく了承された。

(2) 人事について

次の委員交代について提案があり、確認の結果、提案とおりに選任等された。

- ・ 委員退任 大野 里実（東京電力HD）
- ・ 委員選任 田中 広大（東京電力HD）
- ・ 常時参加者解除 田中 広大（東京電力HD）

(3) “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準（改定案）”に関する原子力学会標準委員会中間報告における意見募集結果及び意見への対応について

昨年12月9日の第86回標準委員会にて中間報告を行い、30日間（12月10日～1月14日）の意見募集が行われ、6名の委員からご意見をいただいた。

この意見への対応について報告があり、審議の結果、本内容にて了承された。

今後、専門部会（2月1日）、標準委員会（3月2日）にて報告する。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

中山委員：No.3に対する修正案において、「原子炉施設以外」とは具体的に何を指すのか。

田伏委員：核燃料施設など、具体的には再処理施設は排気筒を持っており、適用可能と考えられる。

市川委員：No.9の2つ目の対応方針は、「解説6. に～」でなく、「解説6.3に～」の方が回答として親切では。また、この意見については、先の分科会でも議論となり、対応方針のとおり今後の課題として取り組むとしていたが、それらの進捗は？

田伏委員：対応方針の記載について拝承。対応方針にあるとおり、風洞実験に係る数値モデル計算結果がまだ少ない状態にあり、今後実績を積み重ねる必要があると認識しているが、具体的な方策及び機会については、申し上げる状態にない。

市川委員：新設時に数値モデルのみで評価を行うための検討が、従前より今後の課題となっていたと考える。次回の改定に向けて引き続き検討を行って欲しい。

近藤主査：No.10の対応方針で、バックフィットを指向しているものではないとあるが、将来的にはバックフィットも有り得るのか。

田伏委員：風洞実験と数値モデルは、有効高さを算出する手法として同等である、すなわちいづれを用いてもよいという位置付けを目指していると認識している。よって、今後風洞実験に置き換わることはあり得るものの、バックフィット≒数値モデルでのやり直しは無いと考える。

(4) その他

今後のスケジュールについて、参考資料のとおり共有された。

以上